

令和元年度教育事業
自然体験活動指導者養成研修
(NEAL リーダー養成)

1. ねらい

- ・ 子どもの発達段階において適切かつ安全に指導ができる自然体験活動指導者を養成する。
- ・ 野外活動の基本的なスキルを身につける。
- ・ 野外でのリスクマネジメントの基本を理解する。

2. 実施日

9月4日(水)～9月6日(金) 2泊3日

3. 対象者

大学生、青少年教育指導者

4. 参加者 / 募集定員

20名 / 20名

5. プログラム (要約)

NEALリーダーのカリキュラムに則り、自然体験活動の基礎基本を学ぶ18時間の講習を行った。参加者は県内の大学生を中心に、三重県、和歌山県、兵庫県、遠くは愛媛県や千葉県などから民間団体等の指導者、大学生が参加した。

<講習会のスケジュール>

●9月4日(水) 1日目

「開講式」

「オリエンテーション・ガイダンス」

「青少年教育における体験活動」、

「対象者理解」 野口和行氏(慶應義塾大学教授)

「自然体験活動の指導」 蓬田高正氏(天理大学講師)

●9月5日(木) 2日目

「自然体験活動の特質」 増田直広氏(キープ協会主席研究員)

「自然体験活動の技術」 高瀬宏樹(国立曽爾青少年自然の家)

●9月6日(金) 3日目

「自然体験活動の安全管理」 甲斐知彦(関西学院大学教授)

「3日間のふりかえり」

「修了試験」

9月4日(水) 1日目

所長のあいさつで研修会がスタート。今回の講習のねらいとNEALの指導者養成制度について説明が行われた。

受講者の良い関係づくりのため、A4用紙1枚を使って、「自分自身がはまっているもの・こと」を書いて自由な自己紹介をした。話もはずみ交流が進んだ。

野口和行氏(慶應義塾大学教授)による「青少年教育における体験活動」では、自分自身の子どもの頃の体験を洗い出し、その後、現代の子供たちとの比較をし、課題について協議をした。自らの体験を振り返りながら現代の子どもの様子を考えていくという方法が、リアルに理解することにつながったようである。



「対象者理解」では、野口氏が主宰する障害のある子どものキャンプの事例から、どのようにアプローチするかを小グループでの話し合いを通して検討した。「問題行動」ではなく「行動問題」としてとらえようという提案もあった。蓬田高正氏(天理大学講師)による「自然体験活動の指導」では、「どんな指導者が理想の指導者か」について協議した。各グループから、協議結果が発表されると、知識や技術のほか、人間性が大切というコメントが多く出てきて、改めてその大切さを認識したようである。

9月5日(木) 2日目

増田直広氏(キープ協会主席研究員)による「自然体験活動の特質」では、まずSDGs(持続可能な開発目標)を取り上げた。グローバル(世界的)な環境問題は、実は自分たちの身の回りの身近な部分から始まっているという話に多くの共感があった。とくに「環



境問題の原因は人と人の関係が壊れることから始まる」という言葉が印象的だったようである。後半はフィールドに出て、「見る」という観点を大切に、自然環境をどのようにプログラム化していくか体験しながら学んだ。「葉っぱ」について大きさに注目したり、形状だったり、色だったり、様々な特徴に目を向けて、遊びにしていくなかで受講者は感心しきりであった。



「自然体験活動の技術」では、基本的なスキルとなる「刃物」と「火」を中心に扱った。まず室内でナイフを使って鉛筆を削ることから講習を始めた。なかなか思い通りに削れない受講者もいた。「できるつもりになっている」こともあり、「指導するためにはまず自分自身が正しくできること」をこのコマのねらいとして講習を進めた。薪をどう組めば火は起きるのか、美味しく作るにはどうしたらよいか、効率のよい進め方は何か、安全に行うにはどう指導するのがよいかグループで話し進めながら学習した。



9月13日(木) 3日目

甲斐知彦氏(関西学院大学教授)による「自然体験活動の安全管理」は、動画を多く活用した講義となった。東日本大震災時のディズニーランドの対応から、どのように有事に備えておくか、またもしもの際にどのようにマネジメントするのかという、「リスクマネジメント」の考え方について先に講義があり、その後、具体的な対応について様々な事例をあげて研修を行った。



講習はワークを中心に進んだ。野外活動の場面を描いた絵から危険な場面を見つけたり、危険の度合いを表にして並べたり、虫刺されやケガなどの対応について確認するなどした。あらためて安全管理を認識し、自然体験活動の土台が安全であることを確認する機会となった。

6. まとめ

今回は、全国レベルで活躍している講師陣から、最新の知見を学ぶ研修となった。受講生は初心者ばかりでなく、経験のある方もいたが、「いままでリーダーをしてきても知らなかった知識や考え方を学ぶことができた」という反応があった。また、「自然体験活動が支える側にとっても参加者にとっても良い影響を与えることは体感としてありましたが、なぜそうなのかを知る機会となり、その先に目指していくことの確認にもなりました」という声も聞かれた。学生だけでなく、民間の自然体験活動団体のスタッフや、地域おこしの活動をされている方など、様々なバックボーンを持った方々同士の活発なやりとりも講習を充実させた。今後の受講者の活動をフォローしていけるよう、自然の家でもサポートしていきたい。

(企画指導専門職 高瀬宏樹)